

実施過程	実施内容・要点	時間 90分	プレゼン	進行者の主な指示例・発問例	*留意点 ▼準備物等 【 】内は使用する資料名	
はじめに	◎本校内研修の概略説明 ○ウォーミングアップ 1 ねらいの確認 (1) 事例に関して、情報収集することにより生徒理解を深め、具体的な指導援助策を考える力を養う (2) インシデント・プロセス事例研究法について、演習を通して体験的に理解する	10	1 [説明] 今日「インシデント・プロセス事例研究法による生徒への指導援助」について研修します。今日は、○○と○○の2名で研修を進めていきます。よろしくお願いします。 2 (指示) 研修の前にウォーミングアップをしましょう。「頑張っている私」です。①一人ずつ、最近頑張っている、努力していることを発表していきましょう。時間は一人30秒です。聞く人は、一生懸命聞いてください。②30秒後に「言葉を返してください」と進行者が声をかけるので、発表した次の人から時計回りに、「～がんばってますね」と言葉を返してください。時間は一人15秒です。③45秒後に私が「ハイみんなで」と言いますので、全員で手をたたきながら「頑張ってる、頑張ってる」と発表者に伝えましょう。最初に発表する人を決めてください。(挙手で確認する)では、始めます。 3 [説明] はじめに、今日のねらいを確認します。今日のねらいは「事例に関して、情報収集することにより生徒理解を深め、具体的な指導援助策を考える力を養う」「インシデント・プロセス事例研究法について、演習を通して体験的に理解する」の2つです。			* 予め、学年中心の4人程度のグループをつくり、事前に机の配置や用紙等の配布を済ませておく。 【テキスト資料】 * 一人が終了したら2人目が①～③を行い3人目、4人目と同様に進めることを確認する。 * 始める前に、「ハイみんなで」の後の練習を行う。
I 説明	2 事例研究の意義 ・生徒のために ・教師自身のために ・教師集団のために 3 インシデント・プロセス事例研究法についての説明 (1) 特徴 ・多角的・多面的な情報収集を行い、生徒理解を深めながら、具体的な指導援助策を考える (2) 事例提示（記載内容） ・問題行動、保護者・家庭環境、生育歴・健康状況、学校生活・友人関係、能力・性格特性、本人の言葉や気持ち等を10行程度で記載 ・指導経過は記載しない (3) 進め方 ・事例提示と情報収集→個人研究→グループ研究→全体研究 (4) 準備物 ・事例、進め方の資料、記録用紙3種類、付箋紙、マーカーペン (5) 留意点 ・事例提供者を支える姿勢を持つ、他の事例を持ち出さない、秘密の保持、事例や資料の回収して適切に処分する	10	4 [説明] 先ほどのウォーミングアップで先生方が頑張っているのが分かりました。生徒や学級の問題などにも頑張っていましたね。ただ、その努力が実を結んでいるかというところ、難しいです。今日行う事例研究の意義は、個人での頑張りに皆の力を合わせて組織で頑張りを形にしていこうというものです。そのよさは、3つあります。 ・生徒のために →みんなで知恵を出し合うことで、生徒理解が深められ、確かな理解を進めることができます。 ・教師自身のために→違った視点からの生徒理解やかかわり方を学ぶことができ、自分の資質向上につなげることができます。 ・教師集団のために→組織を生かして連携を図ることで協働性を高めることができます。 5 [説明] このように様々なよさのある事例研究ですが、今日はインシデント・プロセスという方法で事例研究を行います。このインシデント・プロセス事例研究法の特徴は、情報収集を重視することです。参加者全員で質問をして 多角的・多面的に問題の理解（情報の収集） を進めます。そのため、事例は一部分の内容を示すだけにとどめ、これまでの指導経過は記載しません。つまり、過去を掘り下げるのではなくこれからどうかかわるか、 具体的な指導援助策 を考えていくということが大きな特徴になります。 6 [説明] 事例はA4判1枚に、まず学年・性別・氏名(匿名)を書き、①問題行動 ②保護者、家庭環境 ③生育歴、健康状況 ④学校生活、友人関係 ⑤能力、性格特性 ⑥本人の言葉や気持ちに関する内容を10行程度で記載します。この方法では、参加者が知り得た情報に基づいて、自由に指導援助策を考えるため、これまでの指導経過は記載しません。 7 [説明] 進め方です。インシデント・プロセス事例研究は、1事例提示と情報収集→2個人研究→3グループ研究→4全体研究の順番に進めていきます。1事例提示と情報収集は、質問して事例の全体像をつかむ段階です。2個人研究は、何が問題で、どんなかかわりがよいかを考える段階です。3グループ研究は、個人研究をもとにグループで考える段階になります。4全体研究は、全体でよりよいかかわりに高める段階です。詳細はこの後演習の際に説明します。 8 [説明] 準備物は、◇事例、進め方の資料◇記録用紙3種類→情報収集用・個人研究用・グループ研究用紙（A3）◇付箋紙→グループの人数分の色をそれぞれ6枚◇マーカーペンです。 9 [説明] 留意点は、参加者は事例提供者を支える姿勢で臨み、事例提供者の立場になって考える、他の事例の話を持ち出さないようにする、です。その他、秘密の保持に十分に気を付け、事例や資料を回収して適切に処分することも大切です。ここまでインシデント・プロセス事例研究法について説明してきましたが、何か質問はありませんか。			【テキスト資料・参考資料】 * インシデントとは、簡略な事例をいう。 * 提供者の見方・視点からの情報だけでなく、参加者全員の質問で事例の全体像をつくる意味を理解してもらう。 * 指導経過を記載しない理由は、事例の全体像から自由に指導援助策を考えるため。 * 記録用紙1（情報収集用）、記録用紙2（個人研究用）、記録用紙3（グループ研究用）、付箋紙、マーカーが人数分あるか確認するとよい。
II 演習	4 インシデント・プロセス事例研究法での演習 (1) 事例の提示と情報収集 ①事例の概要を把握する ②質問を検討し、記録用紙1へ記入する ③事例提供者に質問をする (2) 個人研究 ○担任（事例提供者）の願いを聞く ①事例の問題点3項目と対応する指導援助の具体策を付箋紙に記入する ②指導の対象別に付箋紙を記録用紙2に貼付する (3) グループ研究 ①記録用紙3に付箋紙を貼り付けながら、問題点と指導援助の具体策を発表する ②グループとしての3項目の問題点と指導援助の具体策を検討する (4) 全体研究 ①各グループの問題点と指導援助の具体策を発表する ②発表への質疑応答、協議を行う ③事例提供者から指導経過と感想を発表する	8 12 10 20 15	10 (指示) それではこれからインシデント・プロセス事例研究法を活用して実際に事例研究を行っていきます。 11 (指示) 最初に、今日の事例提供者を紹介します。（事例提供者から自己紹介をしてもらう） (指示) それでは事例を配布しますので、事例を読み、概要を把握してください。（事例を配布する） (指示) 次に、問題の理解や問題の解決に必要なと思う質問を検討し、記録用紙1に記入します。時間は5分です。 12 [説明] 次は事例提供者への質問になりますが、まず、質問の仕方と受け方の説明をします。 質問は、一問一答形式で、参加者が事例提供者に順番に質問していく方法で進めていきます。具体的には、◇簡潔に具体的に質問します。例えば「生育歴はどうですか」といった漠然とした質問ではなく、「大きな病気とは何ですか」などと具体的に聞いていきます。◇同じ質問を繰り返しません。◇時間の許す限り何回でも質問していきます。なお、質問の際は、前の人と関連した質問も考えて理解が膨らむようにしてください。また、どんな指導援助をしたかを質問しないのがこの方法の特徴ですので注意してください。 質問の受け方です。○事例提供者は、質問したことだけに答えます。○分からないことは推測で答えずに「分からない」と答えます。他者の質問への回答は、共通の情報にしてください。 (指示) では、1班から順番に質問していきます。一回りしたら、その後は自由に質問していきます。時間は10分です。質問して全体像を組み立てていってください。では、お願いします。 13 (指示) 次は、個人研究です。その前に担任（事例提供者）の願いを話していただきますので、聞いてください。 [説明] では、個人研究に入ります。まず、事例の問題点3項目を考え、1項目ずつ付箋紙に記入します。問題点は、できるだけ本人だけ3つとか学級だけ3つとかに偏らないようにしてください。併せて、それに対応する援助の具体策を1項目ずつ付箋紙に記入します。（板書を指しながら）本人はこの様な状況にあります。どんな気持ちでしょうか。それもおさえながら、様々な角度から援助策を考えてください。ポイントは、事例提供者の立場に立ち、いつ・どこで・誰が・どんなことを、と具体的に考えることです。具体策を考えたら次は、付箋紙に記入した問題点と具体策を個人研究用記録用紙（記録用紙2）に指導の対象別に貼り付けていきます。（A4判14にして）このようになります。なお、個人研究は今ある情報で考えてください。これもこの方法の特徴になります。 (指示) それでは、個人研究を始めてください。時間は7分です。 15 (指示) 次に、グループ研究に入ります。まず、グループの進行者・全体発表者を各1名決めてください。（挙手で確認する） [説明] 最初に、一人一人、グループ研究用記録用紙（記録用紙3）に付箋紙を貼り付けながら問題点と具体策を発表します。1人1分半以内です。（A4判16にして）このようになります。全員が発表したら、重要な発表にマーカーで目印をしながら、グループとして取り上げる3項目の問題点と具体策を検討します。取り組みやすいもの、効果が期待できるものと考え、いつ・どこで・誰が・どんなことを指導援助するか、具体的に練り上げてください。そして優先順位を付けてください。 (指示) それでは、グループ研究を始めてください。時間は発表6分、検討が10分、合わせて16分です。 [説明] 全体研究です。全体研究ではまず、各グループの発表者が各班で検討した問題点と具体策を発表します。その後、各班の発表に対して質疑応答・協議を行います。 (以下、演習進行案を参照)			* 演習は時間厳守で進める。進行補助者も時間管理を行う * はじめに 事例提供者を紹介する。 ▼事例、記録用紙1 * 質問例を補足する。 * 順に進んでいかないときは指名して進める。 * 進行補助者は回答のポイントを板書する。 ▼付箋紙、記録用紙2 * 事例提供者の立場で、問題点や具体策を考えることを確認する。 * 事例提供者が各班を回っても質問はしないことを確認する。 ▼記録用紙3、マーカー * 同じ内容の問題点や具体策は同じ位置におき簡単な補足のみとする。 * グループの進行者は時間を管理し、全員に発言してもらう。 【演習進行案】
III まとめ	◎ まとめ 多角的・多面的な（情報収集） を行う ↓ 生徒理解を深めて 具体的な（指導援助策） を考える ↓ 組織を生かし、 （連携） を進める	5	18 (指示) 今日の校内研修のまとめです。テキストのまとめの（ ）に今日のキーワードを入れて確認してください。（1分程度時間を取る） [説明] まとめです。今回はインシデント・プロセス事例研究法を実施しましたが、参加者全員で質問をして 多角的・多面的に情報収集 を進め、 具体的な指導援助策 を考えることができました。一人の頑張りにには限界があり、危険もあります。事例研究では、皆で生徒理解の幅やかかわりの幅を広げるだけでなく、組織を生かして 連携 で 対応すること（連携の幅を広げること） も大切になります。この方法は、最初のウォーミングアップと説明部分を除けば70分で実施可能です。また、学年やブロック単位で実施すれば全体協議を行わないので50分で実施できます。生徒のために、教師自身のために、教師集団のために、ぜひ実施していきましょう。（称賛） 今日は、先生方の熱心な取り組みがたいへん印象に残りました。ありがとうございました。			【テキスト資料】 * 事例を回収する。

「問題行動への対応」 ーインシデント・プロセス事例研究法を活用してー

1 研修のねらい

- (1) 事例に関し、情報収集することにより生徒理解を深め、具体的な指導援助策を考える力を養う。
- (2) インシデント・プロセス事例研究法について、演習を通して体験的に理解する。

2 事例研究法の意義

- ・生徒のために → 生徒理解が深められ、適切な指導援助をすることができる。
- ・教師自身のために → 違った視点（立場や経験）からの生徒理解やかかわり方を学ぶことができ、自分の資質向上につなげることができる。
- ・教師集団のために → 組織を生かして連携を図ることで協働性を高めることができる。

3 インシデント・プロセス事例研究法について

(1) 特徴

インシデント・プロセス事例研究法は、情報収集を重視するために、事例の一部分だけの内容（簡略な事例をインシデントという）が示される。参加者は担任（事例提供者）に次々と質問し、事例に関して多角的・多面的に情報収集を行う。情報から把握できた全体像から事例の問題点を探り、対象の生徒への理解を深めながら、具体的な指導援助策を考えるのが特徴である。

(2) 事例提示

インシデント・プロセス事例研究法の事例は、A4版1枚に10行程度で、簡略に以下のような内容を記載する。参加者が知り得た情報に基づいて、自由に指導援助策を考えるため、これまでの指導経過は記載しない。したがって、まとめの段階で、事例提供者が事例提示後のこれまでの指導経過を説明し、全体研究で発表された具体的な指導援助策の有効性について述べ、研究を深めるようにする。

＜学校種別、学年、性別、氏名(匿名)＞

- (1) 問題行動に関すること
- (2) 保護者、家庭環境に関すること
- (3) 生育歴、健康状況に関すること
- (4) 学校生活、友人関係に関すること
- (5) 能力、性格特性に関すること
- (6) 本人の言葉や気持ち（心境）に関すること

(3) 進め方

インシデント・プロセス事例研究法の進め方は、参考資料の通りである。実際の研究会では、参加者全員に、事例及びこの進め方の資料と以下の(4)に述べる記録用紙を配付して実施する。

なお、時間配分、グループ人数等は、研修時間・人数に応じて工夫し、設定する。

（４）準備物

インシデント・プロセス事例研究法では、以下を準備して行う。

- ◇ 事例・進め方資料
- ◇ 記録用紙（１情報収集用・２個人研究用・３グループ研究用）
- ◇ 色違い付箋紙（グループ人数分の色をそれぞれ６枚）
- ◇ マーカーペン（グループ数分）

記録用紙１〈情報収集用記録用紙〉

	収集したい情報（質問項目）	収集された情報（他者の質問からの情報を含む）
本人		
学級		
学年 学校		
保護者 家庭		
他		

記録用紙２〈個人研究用記録用紙〉

	問題点	指導援助の方向性・具体策
本人		
学級		
学年 学校		
保護者 家庭		
他		

記録用紙３〈グループ研究用記録用紙〉

個人研究用と同じである。ただし、グループの人数に応じて一回り大きな用紙を使用する。

（５）留意点

- ① 事例提供者を支える姿勢を持つ。
- ② 他の事例の話を持ち出さない。
- ③ 秘密の保持に十分注意する。

◇ まとめ

インシデント・プロセス事例研究法は、**多角的・多面的な**（ ）を行い、生徒理解を深めながら、**具体的な**（ ）を考える点が特徴である。
組織を生かして、他の教員と（ ）して対応することも大切である。

インシデント・プロセス事例研究法の進め方資料

活動項目	時間	全体・グループ・個人の活動	留意事項
○事例研究の目的と進め方	10分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進行者等が準備物を配付し、事例研究の目的、進め方を説明する。 <目的> <ul style="list-style-type: none"> ・事例に関し、多角的・多面的に情報収集をすることにより生徒理解を深め、具体的な指導援助策を考える力を養う。 <準備> <ul style="list-style-type: none"> ・事例・進め方資料 ・記録用紙（情報収集用・個人研究用・グループ研究用） ・色違い付箋紙（グループ人数分の色をそれぞれ6枚） ・マーカーペン（グループ数分） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 時間配分、グループ人数等は、研修時間・人数に応じて工夫し、設定する。 ○ 予め、3～5人のグループを編成しておき開始する。
(1)事例の提示と情報収集	20分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事例（別紙）を読み、概要を把握する。 ○ 本人及び問題行動理解のために、必要な質問項目を考え、情報収集用記録用紙に記入する。 <質問項目例> <ul style="list-style-type: none"> ・問題行動に関すること ・保護者、家庭環境に関すること ・生育歴、健康状況に関すること ・学校生活、友人関係に関すること ・能力、性格特性に関すること ・本人の言葉や気持ち（心境）に関すること ○ 一問一答形式で、参加者が一人ずつ順番に、担任（事例提供者）に質問する。 <留意点> <ul style="list-style-type: none"> ・一度出された質問は、繰り返して質問しない。 ・参加者全員が時間の許す限り、何回でも質問する。 ・担任（事例提供者）は、質問されたことだけに答える。 ・担任（事例提供者）は、わからないことはわからないと答える。 ○ 参加者は、他者の質問をよく聞き、情報収集用記録用紙に記入しながら、共通の情報とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 項目ごとに集中的に質問しながら、次の項目へ移っていく方法も考えられる。
(2)個人研究	10分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事例に対する問題点を3項目考え、1項目ずつ付箋紙に書き込む。 あわせて、それに対応する指導援助の方向性や具体的な対応策を考え、1項目ずつ付箋紙に書き込む。 ○ 指導の対象別に、付箋紙に記入した問題点と具体策を、別々に個人研究用記録用紙に貼り付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 担任（事例提供者）の立場に立って、問題点や指導援助の方向性・具体的な対応策を考える。
(3)グループ研究	20分	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループでの話し合いの取りまとめ・全体発表役1名を決めて開始する。 ○ 一人一人、グループ研究用記録用紙に、付箋紙を貼り付けながら問題点と具体策を発表する。 ○ 各人の発表の中で、特に重要と考えられる問題点と具体策にマーカーで目印等をしながら、グループとして取り上げる問題点と具体策を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ内容の問題点や具体策は同じ位置におき簡単な補足のみとする。
(4)全体研究・	15分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各グループが取り上げた問題点と具体策を発表し、質疑応答・協議を行う。担任（事例提供者）からは、実際の指導経過等を説明し、全体で事例に対する研究を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 具体策に優先順位を付ける。
○まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 担任（事例提供者）に本日の事例研究に対する決意や感想等を述べてもらい、振り返りを行う。 	

* 事後（一定期間をおいて）、事例提供者は指導援助の途中経過を報告する。よい変更が見られないときには再検討を行う。

全体研究（15分）

① 各グループの問題点と具体策の発表（7分）

- ・【説明】 全体研究です。全体研究ではまず、各グループの発表者が各グループで検討した問題点と指導援助の具体策の発表します。事例提供者のためにポジティブメッセージで伝えてください。その後、各グループの発表に対して質疑応答・協議を行います。
- ・【指示】 ア まず、各グループ一押しの案を発表してください。時間は30秒です。同じ内容の場合は簡潔に発表してください。1班お願いします。（→順番に発表させる。発表後は拍手をする）
イ 次に、指導援助の具体案が出なかった指導対象項目の案を発表してください。時間は30秒です。（→順番に発表させる。全ての指導対象項目が出た場合は、二押しの案を発表させる。発表後は拍手をする。）

- ※ 進行者は、時間の管理を行う。
- ※ 進行補助者は、発表された具対策のポイントを板書する。

② 発表への質疑応答、協議（5分）

- ・【指示】 各グループの発表への質疑応答、協議を行います。
ア まず、発表への質問はありませんか。
（付け足しの意見やこうしたらどうか、という意見を聞いてもよい）
イ 次に、協議に入ります。取り組みやすいか、効果が期待できるかを踏まえ、優先した方がよい具体策を考えて実際の指導に生かしていきたいと思います。どの案を優先したらよいでしょうか。

- ※ 進行者は、同じ内容のものを整理しながら優先する案を考えさせる。
- ※ 進行補助者は、板書事項の案に優先する印を付けていく。

③ 事例提供者から指導経過と感想の発表（2分）

- ・【指示】 最後に、事例提供者からのこれまでの指導経過等の概要と提案を受けての感想を述べてもらいます。（→事例提供者が発表する）

◇ 進行者より（1分）

- ・〈コメント例〉

- ・ 事例提供者の立場に立って、真剣に考えていました。指導援助策は、いつ・どこで・誰が・どんなことをするかなど具対的な指導援助策として提案され、実際の指導援助に生かしていけるものになっており素晴らしいです。
- ・ 多くの目で優先順位を付けることができ、この問題に対して、組織的な対応をスタートできたと思います。～という案も出されました。事例提供者の先生だけでなく、連携して対応して行きたいと思いますので、この後も先生方の協力をお願いします。
- ・ 今日出していただいた1つ1つが重要なアイデアです。事例提供者の先生には各グループの研究用記録用紙を持ち帰ってもらいますので、詳しく見ていただき今後の指導に生かしてください。

- ・【説明】 これで今日の事例研究は終了になります。知り得た情報は口外しないことが事例研究での約束になりますので注意してください。事例と情報収集用紙は、研修会終了後に回収します。

〈参考文献一覧〉

- ◇ 教育相談ガイドブック 9 学校不適應児童生徒の事例による校内研修会
埼玉県教育委員会

- ◇ 図解・生徒指導 鳴崎政男 学 事 出 版